

名ゴールキーパー

小川恵子

日本経済が長期不況の時代となり、わが社の事業も二年連続の赤字となった。興信所のデータを見たある仕入先が取引を停止したいと言ってきた。他の取引先はどうなのだろう。社長である夫は健康を書して、日常の業務はできるのだが、難しい話になると苦痛のようであった。

仕方なく私は夫の亡き兄の友人である税理士に相談をした。彼は会社の経営者でもある。「データバンクに提出用の別の決算書を作りましょう。誰でもやっていることです」と、彼はいとも簡単に答えた。つまり粉飾決算書である。返事は保留したが、私は悔んだ。今までサタンはあらゆる手口で不正の罪に誘ってきたが、職業生活の終り近くに最も激しい誘惑をしてきた。断れば？ 他に方法は？ 私は祈ったが、神の応えはなかった。返事をする日、私はまだ迷い「神様お助け下さい」と祈りながら電話をかけていた。

一つの幻が浮かんできた。サッカー場でサタンチームと戦っている。今まで味方だと思っていた人も相手方に入り、大集団となって鼻唄まじりでボールを蹴ってくる。私は一人

で必死に応戦するが、力尽きてついにシュートをゆるしてしまい、サタン応援団の大歓声の中、崩れるようにグラウンドに倒れた。

現実に戻る。何回かけても電話には誰も出てこない。翌日、仕事の途中で税理士の会社に寄った夫が電話をしてきた。事務所は閉鎖され「自己破産」の張り紙がしてあると言う。

再び幻のサッカー場にいる。サタン側の大歓声は突然に静まり、私の応援団から拍手が起こった。後ろを振り向くと、シュートされたボールはゴールキーパーにがちりと受け止められていた。

そして、そのゴールキーパーは、何と、主イエス・キリストだった。

その後、例の仕入先とは取引条件を少し変更したのみで解決した。人生で罪の誘惑はしばしばある。しかし、神は背後でいつもみ守りくださっていることを知った。